



[ 中長期計画ビジョン ]

# NEXT FRONTIER 2025

魅力ある国際教育イニシアティブ

魅力ある国際教育で10年先の未来、2025年に輝くために。



2015年度をもって学校法人栗本学園が名古屋国際高等学校に国際教養科を設置し、中等教育における国際教育の実践を開始してから記念すべき20年目を迎えました。建学の精神であるフロンティア・スピリット（開拓者魂）を基軸とし、名古屋国際中学校・高等学校が実践する国際教育の質を高め、さらなる飛躍を実現するため、21世紀のファーストクォーターを迎える2025年を目標年とした中長期計画ビジョンを策定します。

# 名古屋国際の10年先の未来

2025年の名古屋国際中学校・高等学校は、世界水準の国際教育を実践する私立中高一貫校として、東海地区において先駆的な役割を担い、国際的に活躍できるグローバル・リーダーに求められる国際的素養を醸成する独創性の高い教育環境を有した中等教育機関となることを目指します。そして、名古屋国際中学校・高等学校での国際性、多様性に富んだスクールライフを期待する生徒を国内外から広く受け入れ、魅力ある国際教育の実践をもって世界の幅広い分野で秀でて活躍する卒業生を数多く輩出することを実現させます。

## Vision [ 名古屋国際の3つのビジョン ]

|                   |                            |
|-------------------|----------------------------|
| Vision1 [ ビジョン1 ] | 世界基準の魅力ある国際教育を先駆的に取り組む私立学校 |
| Vision2 [ ビジョン2 ] | 持続可能な国際社会に貢献できる高い志を持った国際生  |
| Vision3 [ ビジョン3 ] | 世界と日本の未来を担うリーダーとして活躍する卒業生  |

# 名古屋国際の歩みと今後の予定

|       |     |                                                                                                 |
|-------|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       |     |              |
| 1994年 | 4月  | 名古屋国際高等学校へ校名変更 国際教養科の設置                                                                         |
| 2001年 | 4月  | 第一期中長期計画ビジョン実行開始                                                                                |
|       | 7月  | 新校舎クラスター型ドームキャンパス着工                                                                             |
| 2003年 | 3月  | 新校舎クラスター型ドームキャンパス竣工                                                                             |
|       | 4月  | 名古屋国際中学校開校 中高一貫教育の開始                                                                            |
| 2005年 | 8月  | 東グラウンドの多目的機能人工芝の整備                                                                              |
| 2008年 | 4月  | 文部科学省教育改革推進モデル事業採択                                                                              |
|       | 10月 | 西グラウンドの多目的機能人工芝の整備                                                                              |
| 2013年 | 9月  | 国際バカロレア・ディプロマプログラム (IBDP) 候補校<br>体育館の大規模改修により格技場およびクラブ室の整備                                      |
|       | 11月 | 東グラウンド夜間 LED 照明ライトの整備                                                                           |
| 2014年 |     | 高大連携推進のため双方向テレビ会議システムの導入                                                                        |
|       | 6月  | 第二期中長期計画ビジョン策定開始(キックオフ)                                                                         |
|       | 10月 | 国際バカロレア機構による認定訪問                                                                                |
|       | 11月 | ユネスコスクール認定校                                                                                     |
|       | 12月 | 国際バカロレア機構の基準を満たした理科実験室への改修工事<br>国際バカロレア・ディプロマプログラム (IBDP) 認定校                                   |
| 2015年 | 1月  | 文部科学省教育課程特例校の指定を受ける                                                                             |
|       | 4月  | 文部科学省スーパーグローバルハイスクール (SGH) アソシエイト採択                                                             |
|       | 8月  | コンピュータ室のアクティブラーニング対応整備                                                                          |
| 2016年 | 3月  | 第二期中長期計画ビジョン実行開始                                                                                |
|       | 6月  | 文部科学省委託事業「ESD 重点校形成事業・サステナブルスクール」の認定を受ける                                                        |
|       | 8月  | 国際バカロレア・ディプロマプログラム (IBDP) 履修生対象教室のアクティブラーニング対応整備                                                |
| 2017年 | 8月  | 東海地区の教育関係者を対象に国際バカロレア機構 IB ワークショップを開催予定                                                         |
| 2018年 | 4月  | 名古屋商科大学 (NUCB) に国際学部を新設予定<br>名古屋国際中学校・高等学校サッカー部と AC ミランがコラボレーションし、<br>AC ミランメソッドトレーニングの受講が可能となる |

# 名古屋国際のビジョンと3つの方針

2025年の名古屋国際中学校・高等学校のあるべき姿を描いた3つのビジョンの実現に向けて、コンセプトに基づいた3つの方針で学校運営を進めます。

## Global Terakoya [世界展開型私塾]

コンパクト・ユニーク・ハイクオリティ

「寺子屋(TERAKOYA)」は、日本における私塾の起源です。民間主導による「寺子屋」は、教師、生徒双方にとって適正な規模(コンパクト)であり、そこは単なる知識伝達だけの場ではなく、個人的、社会的な人間形成の場でもありました。日本近代史で、教育水準の向上や学校教育の急速な発展が成し遂げられたことには、「寺子屋」の存在が大きく寄与したのです。国際教育を実践した本学創立者栗本祐一先生が開学時に採用した教育スタイル、いわば本学の原点もやはり「寺子屋」にあります。現在、名古屋国際が目指す先駆的な国際教育は、世界の潮流を見通した次世代への新しい教育です。一般に広く採用されている画一的な教育に比して、独創的(ユニーク)で質の高い(ハイクオリティ)国際教育を、世界に目を向ける志高い生徒たちに提供していきます。

3つのキーワードは、名古屋国際の教育理念に影響を与えており、21世紀型の寺子屋と称する「GLOBAL TERAKOYA(世界展開型私塾)」を戦略のコンセプトとします。

### Policy1 [方針1] [教育研究に関わる方針]

#### 魅力ある国際教育の仕組みを創る

国際社会の新たなニーズに応えられる人材育成を図るため、これまでの名古屋国際が実践してきた国際教育を継承しつつ、本校の教育理念との親和性の高い世界基準の教育プログラムの改善に取り組みます。また、知識量重視の学力から、課題を探究して解決できる学力を「真の学ぶ力」として位置付け、カリキュラムの改善プロセスでは思考力・判断力・表現力などの能力や主体性・多様性・協働性といった態度を身につける新学習スタイルを積極的に採り入れていきます。

### Policy2 [方針2] [連携に関わる方針]

#### 魅力ある国際教育の価値を高める

多くの分野で主たる事業を異とする複数の組織が有機的につながり、それぞれの経営資源を組み合わせることで新たな価値の創出を図ることが進められています。名古屋国際は国際化を進める国内の大学、民間企業および国際機関等との連携を図ることで、現代のグローバル社会で起きている課題について探究する機会を提供します。これにより名古屋国際が有している国際教育に適した教育環境の領域を拡充すると同時にその専門性を高めます。

### Policy3 [方針3] [管理運営に関わる方針]

#### 魅力ある国際教育を安定させる

名古屋国際の先駆的な国際教育の取り組みは過去20年間の実績で着実に成果を上げ始めています。その一方でユニークな国際教育に関わる経費の支出の増大は本校の財政上の懸念事項となっています。財務の健全化を図るため、事業別予算制度を積極的に採択し、事業毎の収支状況を評価しつつ、スクラップアンドビルドの手法を導入します。さらには、生徒募集体制を強化することで財政基盤を安定させ、帰属収支差額比率1.1を目指します。

# 名古屋国際の12のアクションプラン

3つのビジョンを実現するため、12のアクションプランを実行します。

## Abilities [ 名古屋国際で育む5つの能力 ]

グローバル・リーダーとは、自国のアイデンティティを備え、異国の地においても平常心で行動ができ、異文化で育った価値観の異なる人間とともに国際社会の発展を推進できる人間です。そのような国際的に活躍できるグローバル・リーダーに求められる国際的素養は、次の5つの能力の向上によって醸成されます。

### E 自らを省察して 多面的に評価する能力

現状に甘んじることなく、常に向上心を持って自分を振り返り学び続ける姿勢が自分を伸ばします。

### D 物事を主体的に 探究する能力

与えられた学習ではなく、常に主体的・能動的に探究する意欲と態度を身につける必要があります。

### A 国際的な視野に立って 思考する能力

国際社会の多様性を理解する視野を身につけるために、海外での生活を経験することが有益です。

### B 外国語で コミュニケーションする能力

国際共通言語である英語の力は、国際的な場面で自分を正確に表現するツールとしてきわめて重要です。

### C 寛容な態度をもって 問題を解決する能力

価値観の相違を乗り越えるために、他者への寛容な態度と幅広い知識を身につけることが求められます。



## [ 数値目標 ]

| NO. | 数値目標項目                            | 基準年<br>2015 | PHASE1<br>2019 | PHASE2<br>2022 | PHASE3<br>2025 |     |
|-----|-----------------------------------|-------------|----------------|----------------|----------------|-----|
| 1   | スーパーグローバル大学の合格者数                  | 13名         | 70名            | 150名           | 250名           | 累積値 |
| 2   | 世界ランキングトップ200の大学合格者数              | 1名          | 9名             | 27名            | 55名            | 累積値 |
| 3   | 名古屋商科大学進学者数                       | 14名         | 90名            | 205名           | 345名           | 累積値 |
| 4   | 留学生数 (OUT)                        | 5名          | 26名            | 50名            | 80名            | 累積値 |
| 5   | 留学生数 (IN) ロングステイ                  | 5名          | 26名            | 50名            | 80名            | 累積値 |
| 6   | 留学生数 (IN) ショートビジット                | 77名         | 340名           | 610名           | 900名           | 累積値 |
| 7   | 国際バカレア・ディプロマプログラム取得率              | —           | 80%            | 90%            | 100%           | 年間値 |
| 8   | 国際バカレア・ディプロマプログラム選択生徒数            | 10名         | 85名            | 185名           | 320名           | 累積値 |
| 9   | 温室効果ガス排出量の削減割合                    | —           | -8%            | -12%           | -15%           | 年間値 |
| 10  | 国際ボランティア参加生徒数                     | 8名          | 120名           | 270名           | 500名           | 累積値 |
| 11  | 帰国生徒の全校生徒に占める割合                   | 1.40%       | 7%             | 12%            | 15%            | 年間値 |
| 12  | ネイティブインストラクター1人当たりの累積担当生徒数 (指標化)  | 287         | 1320名          | 2390名          | 3510名          | 累積値 |
| 13  | アクティブラーニング授業実施数                   | 115コマ       | 300コマ          | 650コマ          | 1020コマ         | 年間値 |
| 14  | 学校評価アンケートの平均評価値 (グローバル関係の項目)      | 3.6         | 4.0            | 4.1            | 4.2            | 年間値 |
| 15  | 模擬国連や公益性の高い全国レベルのコンテストへの出場生徒数     | 6名          | 33名            | 68名            | 110名           | 累積値 |
| 16  | ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR) C1以上の生徒数      | 5名          | 34名            | 72名            | 115名           | 累積値 |
| 17  | アドミッションポリシーに沿った意欲的な学生の全校生徒に占める割合  | —           | 55%            | 70%            | 80%            | 年間値 |
| 18  | 姉妹提携校 (IBDP認定年数/ TOP200への合格実績) の数 | 8校          | 8校             | 10校            | 10校            | 年間値 |
| 19  | 学会などでの英語による研究発表、論文本数              | 1回          | 7回             | 12回            | 20回            | 累積値 |
| 20  | 研究開発における校外で活動する生徒数 (海外研修含む)       | 295名        | 500名           | 650名           | 800名           | 年間値 |

## Action Plan [プラン1]

## ① 海外名門大学をターゲットにしたキャリア支援の確立

海外名門大学のアドミッションオフィサーを招致して海外大学進学説明会「東海地区グローバルアドミッションガイダンス」を、東海地区におけるグローバル人材育成に重点をおいた中学校および高等学校の生徒を対象に開催します。また、世界の大学入試で国際基準として活用されている国際バカロレア・ディプロマプログラム（英語版）に対応したネイティブインストラクターによる進路指導体制を確立します。

## Action Plan [プラン2]

## ② グローバル化に対応した教育に資する戦略的な開拓

知識と実践を融合させた先進の国際教育の領域を常に関拓するために、国・地方自治体による中等教育におけるグローバル化を推進する事業へ積極的に挑戦します。また、国際教育の標準としてのモデルスクールにとどまらず、リーディングスクールとしての使命を果たすため、国際教育の分野における大学・地方自治体等からの視察や調査に協力します。

## Action Plan [プラン3]

## ③ グローバル化を推進する組織とのアライアンスの強化

現代のグローバル社会で起きている社会課題に対しフロントランナーとして直接関わっているキーパーソンとの知識や経験、精神に直接触れる機会を創り出すために、グローバル化を推進する国内外の国際機関、大学、民間企業およびNPO等との連携を強めます。また、この連携強化によってSGH開発研究のテーマに関連する分野の教科指導の専門性を高めます。

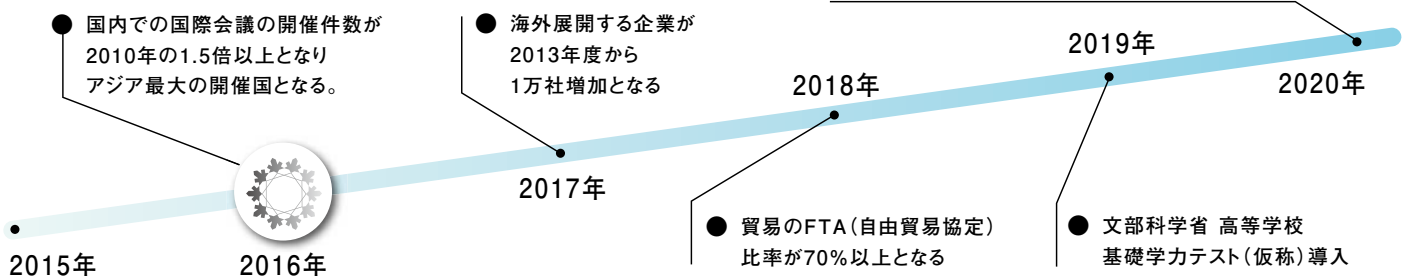
## Action Plan [プラン4]

## ④ 世界を闊歩できる国際人プログラムの導入

国際理解研修の参加者を対象としたスタートアッププログラムを導入し、海外名門大学の大学院生の指導のもとアクティブラーニングを通じて、海外志向である国際生の潜在的な力の発揮を図ります。また、ネイティブインストラクター（TESOL資格者）による高水準英語コミュニケーションカリキュラムを課外に追加し、能力別に少人数の指導を行います。さらに、世界五大陸で見聞を広める新たな国際理解研修コースを連携する大学と共同企画し、地球規模で世界を俯瞰する眼を養います。



- 東京で第32回夏季オリンピックが開催
- 文部科学省 大学入学希望者学力評価テスト(仮称)導入
- 国際バカロレア機構による定期メンテナンス評価訪問
- 国際化に取り組む国立大学86校の外国人留学生割合が10%に高まる(現状の約2倍)



## Phase I

## フェーズ 1 [4年間]

ビジョン実現に向けて必要となる初期段階のアクションプランを実行しながら  
 現行の体制に新たな制度を導入する時期

## Action Plan [プラン5]

## 5 国際生の国際生による国際生のための海外プロジェクトの支援

中長期計画ビジョンの数値目標の達成に貢献する国際生によるプロジェクトを公募します。海外における活動であれば、個人またはグループ単位での企画立案も歓迎します。詳細については学内広報紙「フロンティアタイムズ」で告知しますので、その要領に沿ってエントリーしてください。

## Action Plan [プラン6]

## 6 持続可能な社会の実現に向けた研究開発の推進

SGHアソシエイトの研究開発で得られた知見をもとに、国際教育カリキュラムの深化・充実を図るため、学校設定教科「サステイナビリティ」を新たに設置します。これを高大連携プログラムとして探究型学習とアクティブラーニングを推進します。また、持続可能な社会の実現のため多様な分野の専門家が集い、現状を多面的に評価し、共通の社会課題の解決を目指す新しい対話の形であるフューチャーセンターとしての機能を果たします。

## Action Plan [プラン7]

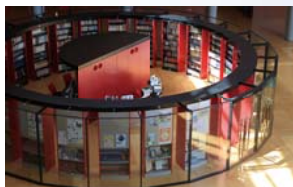
## 7 国際教育を推進できるキャンパスクオリティの保証

教育施設の点検と評価の方法を標準化することで、迅速かつ一元的に改善点を把握し、メンテナンスポリシーに基づいたPDCAサイクルを実施します。施設営繕および備品購入に際しては、優れた技術力を保有し、環境に配慮した省エネルギー基準が認証された製品を扱う企業を選定します。また、ICT環境の整備は、学習効果の測定結果に基づき、生徒の授業満足度の向上に繋がる情報機器を段階的に導入します。

## Action Plan [プラン8]

## 8 国際基準に適合するキャンパスマスタープランの作成

キャンパスは学校の教育方針や歴史を体現するものです。国際生にとっては日々の学習の場であり、卒業生にとっては学校生活の思い出となります。より高度な国際交流に貢献できるキャンパスに再編するため国際基準を満たしたマスタープランを作成します。中央に位置するキャンパス最大の交流の場であるアトリウムの求心力を高めたゾーニングを始め、省エネルギー、生物多様性、セキュリティ、防災に配慮したキャンパスポリシーを設定します。



2021年

2022年

2023年

## Action Plan [プラン9]

## 9 次世代の中等教育に適した入試制度への移行

グローバル化に対応したアドミッションポリシーを軸に、現行の入試の受験資格者に加えて、国際基準の初等教育プログラムの修了者を対象とした次世代の中等教育に適した入試制度に移行します。また、海外に拠点を置く愛知県内の企業のニーズを受けて、帰国生の定員枠の拡大を図るとともに、帰国子女にとってアクセシビリティの高い入試とするために、海外在留期間でもアドミッションオフィサーが現地に対応できる体制を整えます。

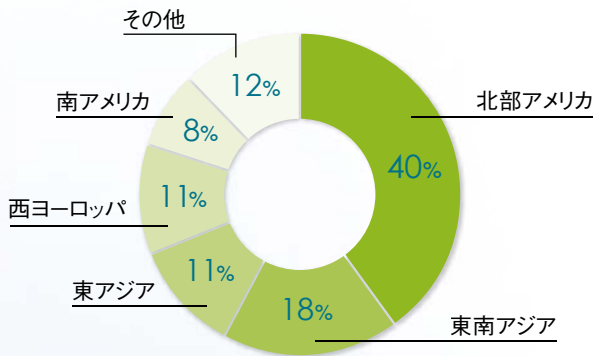
Phase2

フェーズ2 [3年間]

フェーズ1で得られた成果と実績値を勘案して、  
フェーズ3にバトンタッチするためにアクションプランを修正する時期

## 帰国生の在外エリア（帰国時）

※2016年3月現在



世界20カ国の文化圏での生活を経験した帰国生を受け入れる名古屋国際では、国内一般生と帰国生が切磋琢磨して文武に励んでおり、国際教育はすべての国際生を対象に実践しています。

● リニア中央新幹線  
（東京～名古屋間）が開業

2027年

2025年

● 学校法人栗本学園90周年を迎える  
● 国際化に取り組む愛知県が  
中部国際空港の完全24時間運用を実現する

2024年



Action Plan [プラン10]

## 10 国際的に通用する第三者評価の導入

保護者、生徒および教職員の全員を対象として毎年実施している学校評価アンケート（学校関係者評価を元にした自己点検）に加えて、国際的に認知されている監査企業による第三者評価を追加導入し、専門性と客観性を高めた新しい学校評価システムに移行します。なお、その評価を元に単年度の学校基本計画を校長が中心となって策定しウェブサイト等を通じて公表します。

Action Plan [プラン11]

## 11 世界で活躍する卒業生との交流促進事業の開始

名古屋国際高等学校の同窓会組織との共同企画によって、世界各国に留学もしくは駐在している卒業生のネットワークを築くための専用ウェブサイトを設置します。世界で活躍するOB・OGを対象としたグローバル同窓会の開催を支援し、国際生との交流の機会を作ります。

Action Plan [プラン12]

## 12 未来を見据えた小学生英語イマージョン教育の実践

次世代の教育に必須のキーワードとして挙げられる「サステナビリティ」と「プログラミング」の2つのアクティビティを追加した新しい英語イマージョン教育プログラムを名古屋市内の小学生を対象に無料で提供します。ネイティブインストラクターが中心となって行うこのクラスの授業時間の8割は英語で行われ、あらゆる物事を生活の中で自然に学習するのに最適な初等教育時期に国際教養と国際感覚を身につけることができます。

Phase3  
フェーズ 3 [3年間]

中長期計画の最終段階として、ビジョン実現に向けて修正  
および追加されたアクションプラン等の活動が加速する時期

## Q & A

### Q1. アクションプランの進捗状況について どこで知ることができますか？

A1. 本校ウェブサイトや学内広報紙等を通じて広く中長期計画の進捗状況を定期的にお知らせいたします。

### Q2. 毎年実施している学校評価アンケートの結果をもとに策定している学校基本計画と 中長期計画のアクションプランとの関係は どうなるのでしょうか？

A2. 将来ビジョンに沿った中長期計画に基づいて単年度の学校長による教育方針を明示したものが学校基本計画です。2016年度からは将来ビジョンを踏まえた学校基本計画を策定し、そのアクションプランの進捗状況を従来から実施している学校評価の評価項目に含めます。そして当該年度の評価結果を次年度の学校基本計画に反映させます。

### Q3. 計画の途中で当初の想定と

異なる課題が出ることも考えられますが、  
予定通りにアクションプランを  
実行するのでしょうか？

A3. 本中長期計画では現在達成できている数値をもとに挑戦的な目標値を設定しています。進捗状況を評価し、ビジョン実行計画協議会で成果が見込まれないと判断されたアクションプランは延期またはキャンセルするなどして、常に数値目標を達成する実行可能なアクションプランに軌道修正しながら将来ビジョンの実現を果たします。

### Q4. 国際生自身が企画する海外における アクションプランがありますが、 どのような内容を想定していますか？

A4. あくまで国際生自身による企画ですが、安全が確保されたアクションプランである必要はあります。本校の将来ビジョンの実現に向けて中長期計画を推進するアクションプランであることを期待しています。

#### 〔用語解説〕 【スーパーグローバル大学】

海外大学との連携などを通じて、徹底した国際化を進めて、世界レベルの教育研究を行う大学を重点的に支援するために2014年に文部科学省が創設した事業の名称。世界ランキングトップ100を目指す力のある大学をトップ型とし、日本の社会のグローバル化を牽引する大学をグローバル化牽引型としている。

#### 【ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)】

外国語の熟達度を測る共通のものさしとして欧州で広く使われている。Common European Framework of Reference for Languagesの略で、絶対的な評価の基準ではなく、ある言語について、「言葉を使ってなにができるか」を6段階に分けて具体的に細かく記述している。

#### 【アクティブ・ラーニング】

教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学習者の能動的な学習への参加を取り入れた教授・学習法の総称。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習が含まれるが、教室内でのグループディスカッション、ディベート、グループワーク等も有効なアクティブラーニングの方法とされている。

#### 【フューチャーセンター】

中長期的な課題解決を目指し、幅広く関係者が集まって対話する創造的な協業の場。議題は、製品開発や事業戦略策定などの民間分野から、革新的な政策立案など行政分野まで多岐にわたる。

#### 【英語イメージ教育】

理科、社会、体育、音楽、図工などといった授業を英語で教えることにより、生徒に自然に英語を習得させる教育プログラム。英語を学習することを目的とするのではなく、教科を学ぶ手段として英語を使うことを通して英語を自然に習得させる教育のこと。